

全日本語りネットワーク

2009. 5. 10 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 5-19
桐生市市民活動推進センター 内
(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130-2-114808
(E-mail) welcome@japankatarinet.jp
(HP) http://japankatarinet.jp/

ニュース

《語りの小祭り》にご参加ください

全日本語りネットワーク運営委員 江原佳子（群馬県桐生市）

この「集い」の発端は「第7回全日本語りの祭り in 修善寺」でのことでした。「全日本語りの祭り」も回を重ねるごとに参加者が増え、たくさんのお話が立場を超えた多くの語り手によって様々に語られるようになりました。それはとても嬉しいことですが同時に、もっとゆったりじっくり、語り手と聞き手お互いの顔が見える語りの場が欲しい。こんな声も聞こえてきました。

そこで「百人で作る百人の語り場」というキャッチフレーズで中身の濃い語りの場をつくることが提案されました。隔年で開催している「全日本語りの祭り」のあい間に行うことから、「語りの小祭り」という呼び名がつけました。「小祭り」は語り手のぬくもりが感じられる空間でゆったりと語りを聞きあおう、というものです。

1回目群馬県桐生市では、江戸時代から続く豪商の味噌醤油蔵が会場でした。ほの暗い蔵の舞台は水車や秋の草花がライトで照らし出され幻想的な空間で「語り」を楽しみました。じっと座って聞いていると深々と寒かったのですが、それも「語り」を聞く雰囲気をもたせてくれたようです。

2回目岩手県盛岡市では善隣館という教会が会場となりました。吹き抜けの高い天井とモダンな十字架が印象的な明るい空間での語りの会で、ネットワークならではの様々な語りに加え、当地に伝わる民話も土地の言葉で

聞くことができました。名物じゃじゃ麺を美味しく頂いてきたのは言うまでもありません。

そして3回目となる今回は栃木県宇都宮市大谷町で開催されます。大谷は大谷石の産地として知られ、古くは天平13年(795年)国分寺建立の際の土台に使われ、また大正時代に旧帝国ホテルが大谷石によって建てられたことはよく知られています。

JR 宇都宮駅を降り、西口(6番乗り場)立岩行きのバスで25分ほど行くと大谷町に着きます。大谷橋というバス停で降りると目の前に大谷石造りの大きな石蔵(東蔵と西蔵)が屋敷へ入る石段の両側にそびえています。屏風岩渡辺家です。このお屋敷は「紙芝居&子どもと楽しむお話会」の会場になります。また、バス停から少し先には大久保邸があり、中を削り貫いて部屋にした大きな大谷石の岩盤が目を引きまします。このお屋敷は「日本の昔話と下野の民話」の会場になります。もう一軒の渡辺恵美子邸は手入れの届いた庭園に囲まれた茅葺屋根のお屋敷で、こちらは「文学を語る」会場になります。お庭の紅葉の素晴らしさには定評があり、11月には彩り豊かに私達を迎えてくれるでしょう。都会の喧騒から離れ、豊かな自然のなかにたたずむ大谷石造りのお屋敷で、「語る喜びと聞く楽しみ」を分かちあいましょう。皆さまのご参加をお待ちしています。